

| 授業科目 | 科目概要・形式 | 配当年次 | オンライン参加 |
|--|--|----------------|---------|
| 健康情報論 | 2単位30時間(14コマ) 講義科目 | 博士前期1年次 期開講 | ☑・不可 |
| 科目責任者 | 古川 照美 | | |
| 担当者 | 中山 健夫 (非常勤・京都大学医学研究科)、中山 和弘 (非常勤・聖路加国際大学大学院看護学研究科) | | |
| 1. 科目のねらい・目標 ヘルスコミュニケーションの理論と実践を体系的に理解する。ヘルスケア（医療介護現場）におけるコミュニケーションや意思決定、予防行動やヘルスプロモーションにおけるヘルスコミュニケーション/ヘルスリテラシーを考える。 | | | |
| 2. 授業計画・内容 中山 健夫（4コマ） ・健康情報を入力・理解・評価・活用（意思決定、行動）する能力としてのヘルスリテラシーを理解する。 ・疫学・根拠に基づく保健医療の基礎知識を学び、各種の健康・医療情報を適切な利用に役立てる。 ・健康・医療に関する「益と害」に関する情報のコミュニケーションを巡る諸課題を理解する。 ・ヘルスケアにおけるシェアード・ディシジョンメイキングとインフォームドコンセントの違いとそれぞれの役割を理解する。 中山 和弘（10コマ） ・健康情報を入力・理解・評価・活用（意思決定、行動）する能力としてのヘルスリテラシーの定義を把握し、医療の場とヘルスプロモーション（健康の社会的決定要因）の場におけるヘルスリテラシーの相違について理解する。 ・ヘルスリテラシーの測定と評価の方法について尺度を利用して理解する。 ・ヘルスリテラシーのある組織や社会をつくるために必要な科学的リテラシー（エビデンスとナラティブ）、メディアリテラシー（マスメディア、ソーシャルメディア）、文化リテラシーについて議論する。 ・世界のヘルスリテラシーへの取り組みから日本での課題について検討する。 | | | |
| 3. 教科書、参考書 | | | |
| 中山健夫. 健康・医療の情報を読み解く：健康情報学への招待 丸善出版 2014 中山健夫. これから始める！ シェアード・ディシジョンメイキング：新しい医療のコミュニケーション 日本医事新報社 2017 中山和弘. これからのヘルスリテラシー 健康を決める力 講談社 2022 福田洋・江口泰正編：ヘルスリテラシー：健康教育の新しいキーワード 大修館書店 2016. その他、参考書・論文は適宜紹介する。 | | | |
| 4. 成績評価方法 出席状況や試験（ないしレポート）などにより総合的に評価する。 | | | |
| 5. 受講要件 特になし | | | |
| 6. 社会人学生に対する配慮 社会人が受講しやすいよう、オンライン受講を選択できるようにする。また、金曜日夕～日曜日に集中的に講義するなど配慮する。なお、必要に応じて、オンデマンドでの後日受講も可とします。 | | | |
| 7. その他 | | | |